

# ソリューションシート シンジェンタからのおすすめ防除提案

多くの種類のキノコが病原菌とされているフェアリーリング病ですが、浸透材との組み合わせ散布をすることで安定した効果が得られます。

## フェアリーリング病

発生時期と防除タイミング・年間ローテーションの提案

- ベントグリーン(太平洋沿岸地域の平地における発生の場合)

病害	3			4			5			6			7			8			9			10			11					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
フェアリーリング病 (ホコリタケ類)																														



- 日本芝フェアウェイ・ティ(太平洋沿岸地域の平地における発生の場合)

病害	3			4			5			6			7			8			9			10			11					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
フェアリーリング病 (コムラサキシメジ)																														



- ベントグリーンで最も問題となるチビホコリタケに対しては、スペクトラムが広い薬剤を選択し、散布水量はやや多め、もしくは浸透材との組み合わせ散布をすることで安定した効果が得られます。また同時期に発生するダラスポット病やブラウンパッチも考慮します。
- 日本芝フェアウェイ・ティなどで発生するコムラサキシメジやシバフタケに対しては、フェアリーリング病と同時にラージパッチにも効果が期待できる薬剤を選択します。大面積に発生する病害のために散布水量を多めにし難いので、浸透材との組み合わせ散布をすることで効率的に安定した効果を狙います。

芝生用殺菌剤ローテーション資料

芝生用殺菌剤	EBI剤	メトキシ アクリ レート系	ベンゾイ ミダゾ ール系	抗生物 質殺菌 剤	酸アミ ド系	接触型 殺菌剤	その他 成分
製品名	ステロ ール生 成阻害	呼吸阻 害	有系核 分裂阻 害	キチン 合成酵 素阻害	呼吸阻 害	保護作 用	その他
イカルガ35SC					テフルザミド		
グラステン水和剤					フルトラニル		イソプロチ
グラボストフロアブル					フルトラニル		
クリーニンググラス水和剤					メプロニル		
サブロール乳剤	トリホリン						
シャルマツ水和剤			ベノミル		メプロニル		
ターフトップDF		クレソキシムメチル					
ダイブフロアブル	ジフェノコ	アゾキシストロビン					
タフシーバフロアブル	テブコナゾール					ペンシクロン	
ハリテージ顆粒水和剤		アゾキシストロビン					
ポリオキシシズ水和剤					ポリオキシシズD亜鉛塩		
ポリオキシシズドライフロアブル					ポリオキシシズD亜鉛塩		

## 防除のコツ

- キノコの出現、濃緑色リングの確認、枯死リングの確認というように肉眼にてフェアリーリング病の同定ができます。また判断に迷う場合の簡易同定方法として、カップ切でソッドを切り取り、ビニル袋で覆い過湿状態にすることで白色菌糸がソッド土壌表面に浮かびあがる方法があげられます。



濃緑色リングを伴った病徴



楕円形状のチビホコリタケ子実体



白色菌糸が浮かびあがったソッド

- キノコの種類により生息する地下深度は様々です。ヒダホコリタケは土壌表面、チビホコリタケは地下 4-5cm、シバフタケは地下 30cm に渡り生息することが知られています。したがって少水量散布は不向きなことが多く、鉄砲ノズルで 1L/m<sup>2</sup> 散布することで効果が安定します。フェアウェイなど 1L/m<sup>2</sup> 散布が難しい場所は浸透材を組み合わせることで、同様の効果が得られる場合があります。
- フェアリーリング病は土壌の撥水性を伴うことが多く、殺菌剤が病原菌の生息場所へ届けられないことがあります。これに対して浸透材と組み合わせ散布をすることで土壌の撥水性を取り除き、安定した防除効果を出せます。
- 耐性菌のリスクは低いので薬剤ローテーションを過度に気にする必要はありませんが、多種類のフェアリーリング病原菌が報告されているためスペクトラムの広い薬剤を選択します。



## 管理のコツ

- ・ 未熟な有機物の使用を避けます。
- ・ バーチカルカットによってサッチの量を減らします。
- ・ エアレーションを実施します。
- ・ 十分な散水を行います。
- ・ 適度な窒素施肥（一部のフェアリーリング病の症状を緩和します）。
- ・ 浸透材・保水材の使用（撥水性を帯びたエリアへの水の浸透、薬剤の到達を助けます）。



病原菌の感染部位イメージ

フェアリーリング病を発生させる可能性のあるキノコは世界で約 54 種類にもなります。日本でも 30 種類が確認されており、よく見られるものとしては、チビホコリタケ、ヒダホコリタケ、シバフタケ、コムラサキシメジなどがあります。この中でも特にベントグラスで問題となっているのがチビホコリタケとヒダホコリタケです。ノシバ・コウライシバで被害が大きいのがコムラサキシメジです。